

2022 年度育成協議会総会議事要旨

1.開催日時；2022 年 5 月 15 日(日) 19：00 ～ 21:00

2.開催場所：高崎市立新町第一小学校地域開放教室

3.理事出席者：小出利一、山口智裕、丸茂 豊、真塩光男、高島大輔、近藤千佳
有田良幸各理事、吉井宏文監事

運営委員出席者：鈴木新町空手道クラブ委員、峯岸新町 PHOENIX 委員
中島バレーボール教室委員、須賀バスケサークル委員
上原野球教室委員(新町中学校長)、田中ヒップホップダンス委員
小野寺陸上教室委員

来賓者：松本市議、三島市議、高橋新町第二小校長、岡田新町商工会事務局長
梅木新町スポーツ振興会長

NPO 法人新町スポーツクラブ事務局：高橋早織事務局員

4 出席者自己紹介

年度初めであり、また、久しぶりに集合形式で開催された総会となったことから来賓、スポーツクラブ理事、各団体・教室代表委員の順で自己紹介を行った。

5.審議事項

(1) 報告事項

① 理事会総会承認事項の報告

育成協議会総会に先立ち開催した理事会総会において、下記の事項が全て承認されたことを小出議長から報告した。

- (1) 2021 年度事業報告及び決算報告、監査報告
- (2) 2022 年度事業計画及び予算
- (3) 理事・監事の改選
- (4) 2022(令和 4)年度活動方針について

② 2022(令和 4)年度活動方針について

学校部活動の休日地域部活動移行について、資料を基にして小出議長から説明し、その後、次のように上原中学校校長から最初に発言を頂き、意見交換を行った。

・(上原校長)

新町中学校については、小出理事長からの説明のように新町スポーツクラブと連携して地域移行を始めることができている。特に 4 月から始めることができた水泳については、一つの成功例だと考えている。

野球も自分を中心にして教室を昨年の 11 月からスタートして、今後、陸上についても順次お願いしたいと考えている。

この部活動改革は、現時点では正解も不正解もない状況なので様々な方法で取り組んでその都度改善することが最善だと考えている。

• (中島委員)

バレーボールについて、部活動として活動するとなると現在のような活動内容で良いのか、試合に勝つための指導となると現時点ではできないと感じる。

• (須賀委員)

バスケットボールについては、現在、中学生以上で活動しているが特に指導しているのではなく、部活動を受入れて指導となると難しいと感じる。現在のような活動を継続することはできると思う。

• (峯岸委員)

須賀委員と深く意見交換してはいないが、バスケサークルの状況に部活動として中学生がたくさん参加してきたら、プレーヤーとして参加している自分としては、体力差から参加しなくなると思う。

種目によってそれぞれの課題があると思うので、それぞれ議論することが必要になると考える。

• (小出議長)

ここに出席されている大人世代の部活動に対する考え方と現在の中学生たちの考え方とはかなりの相違があるようなので、スポーツ庁の提言案にも記されているが、生徒と保護者の意向を調査することから始めることを考えている。しかし、アンケート調査は、質問項目によって答えを誘導する可能性を秘めているので質問項目も熟慮が必要である。

また、昨年、オンライン研修会で現在の高校生大学生から意見を述べてもらった際にも「自分たちで練習プログラムを考えて、自主的に活動ができたことが楽しかった。」「部活動は、なぜ、一つの種目のみとなっているのか、時々違うスポーツもできる環境があれば良いと思っていた。」という意見があったことを紹介した。

• (上原校長)

小出理事長からの発言にもあったように、中学生たちの部活動に対するニーズが大きく変化してきていることは事実であり、自分も以前は野球の試合で勝たせたい気持ちで指導していた。しかし、今年の野球部新入部生徒、全員が中学生になって野球を始める生徒であり、野球を全力で楽しむための指導方法に変えている。バレーとバスケットについてもおそらく、同様のニーズになっていると感じる。

• (真塩理事)

平日と休日で指導者が異なるための指導方法の違いによる混乱、会費徴収と課題が多くあるが、この多くの課題を整理しないと課題解決にならないと思う。

- (鈴木委員)
部活動の地域移行は、高校進学時の受験についても影響があるのではないかと。高校側は、どのように考えているのか知りたい。
- (上原校長)
現在も推薦する場合、スポーツ推薦以外は部活動の活躍だけを評価して推薦していない。また、現在の中1から高校受験方法が変わることになり、評価方法も変わることが考えられる。
- (小出議長)
スポーツ庁の提言案でも、高校受験、教員の採用方法について、必要な改革を各都道府県教育委員会へ求めている。また、現在の学習指導要領は、探求学習となっていることからテストの点数だけ、部活動だけの評価ではないので受験についても変化すると思われる。
- (山口理事)
現在、中学校で部活動指導員として活動させてもらっている。私達のような民間事業者となると儲けがない事業には手を出さないことは事実である。しかし、公共施設の指定管理をさせてもらっていることから今回のような公益性が高い部活動の支援をさせてもらい、現在、中学生たちも楽しく活動している。現在の活動は「競泳」ではなく「水泳」の活動を目指している。競うのではなく、防災の観点からも新町の場合は、泳げることを中心にして活動している。
- (三島市議)
現場の大変さを痛感し、学校部活動の地域移行の難しさを改めて実感した。新町以外の地域は、どうするのかとも思う。
- (松本市議)
新町が先進的に模範となって活動することは、大変喜ばしい事ではあるが、それでも多くの課題があることを理解できたので、市としてできる支援を考えていきたい。
- (高橋第二小校長)
中学校の部活動地域移行について、たくさんの意見を聞くことができて勉強になった。
- (岡田新町商工会事務局長)
これほど大きな課題に向かって活動して、意見交換していることに驚きがあった。
- (梅木新町スポーツ振興会長)
地域に知恵を出せと言いつつ、財政支援をしなければこうした活動は継続できない。ともかく、財政支援をして部活動の地域移行を円滑に進めて欲しい。
- (小出議長)
約90分間、充実した意見交換会ができたことに感謝する。
できない論を言っても前に進むことはないので、今年度は種目別を含めてたくさん意見交換を行うことになると思うが是非、協力をお願い

いしたい。最終的に、「新町地域に来ると好きなスポーツが楽しくできる環境がある。だから、新町に住みたいという人たちが増えること」があったら嬉しいし地域活性化にもなると私は考えている。

本日は、長時間、ありがとうございました。これで育成協議会総会を終了する。

【追記】

5月16日(月)午前中に中島委員から連絡があり、昨日は時間がなかったので発言できなかった。是非、伝えたいからと次のような意見があった。

最初は、部活動の地域移行はできないと考えていたがいろんな意見を聞いていて、現在参加している中学生たちの意見を思い出して「できる」と考えられるようになった。

「部活動の顧問と意見が合わないと参加している子、学校にはバレー部がないから卓球部だけど、ここでバレーができるから嬉しい。高校になったらバレー部に入ると言ったらバレー部に入って、毎週楽しそうに参加している子、高校生になっても仲間を連れて参加している子、地域の子も達にはバレーボールができる環境を提供するだけで、子ども達は人間的に成長して、バレーの技術的にも成長している。

部活動の地域移行は、こうした環境を作り出すことが大切だと感じた。

確かにやればできると考えられるようになった。

文責：小出利一